
介護ロボット

導入活用

事例集 2018



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

はじめに

本資料は、厚生労働省が公益財団法人テクノエイド協会に委託した「福祉用具・介護ロボット実用化支援事業」（以下「実用化支援事業」）の一環として、これまでの実用化支援事業などを経て商品化された介護ロボット等の導入活用事例をとりまとめたものです。

実用化支援事業も、平成 23 年度から開始し、介護ロボット等の開発・普及に係る事業を実施しているところですが、介護現場の意見交換やモニター調査等の実施を経て、商品化された機器が市場に登場しています。

一方、高齢者・障害者介護の現場では、介護人材の不足や職員の腰痛等が喫緊の課題となっており、介護ロボット等を活用した新たな介護技術の開発に大きな期待が寄せられているところです。

こうした背景を踏まえ、当省では、今般、既に商品化された介護ロボット等のメーカーの協力をえて、介護ロボット等の適切な普及に資するため、導入活用事例集を作成いたしました。

本導入活用事例集が、介護ロボット等の導入を検討されておられる介護事業者の皆様の参考になれば幸いです。

平成 31 年 1 月

厚生労働省

介護ロボット導入活用事例集 2018

目次

はじめに 1

移乗介助（非装着型） ロボット介護機器：移乗アシスト

ロボヘルパー SASUKE

マッスル株式会社 4

移乗支援（非装着型） 離床アシストロボット

離床アシストロボット「リショーン Plus[®]」

パナソニック エイジフリー株式会社 10

排泄支援 水洗ポータブルトイレ

キューレット

アロン化成株式会社 16

排泄支援 水洗ポータブルトイレ

水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん 3号」

株式会社アム 22

見守り支援（施設） 見守りシステム

見守りライフ

トーテックアメニティ株式会社 26

見守り支援（施設） 自立支援型介護見守りロボット 自立支援型介護見守りロボット A.I.Viewlife エイアイビューライフ株式会社	32
見守り支援（施設） データ分析型ケアマネジメント支援ツール みまもり安心サービス パナソニック株式会社	36
その他（意思伝達支援） 医療介護向けコミュニケーション支援システム 意思伝達装置 RICANUS –リカナス– 株式会社デジタルリーフ	40
その他（嚙下支援） 楽のみ 楽のみ進化形 sakura 一般社団法人 TME	44
その他（介護・自立支援） サイborg型ロボット HAL® 腰タイプ 介護・自立支援用 CYBERDYNE 株式会社	46

マッスル株式会社

ロボヘルパー SASUKE

機器の概要

移乗をアシストする介護ロボット

ロボヘルパー SASUKE (以下「SASUKE」とする) は、移乗をアシストするロボット介護機器です。

自力で立つことができない方、二人以上で移乗介助をおこなう方などの移乗介助の際に、介護をおこなう方と介護を受ける方の双方の負担を軽減します。負担の軽減は、移乗介助時の介護を受ける方と介護をおこなう方とのより良いコミュニケーションへと繋がります。



抱き上げ式による移乗

SASUKE には二本のアームがあり、このアームを専用シート (以下「シート」とする) の両端に差し込み、お姫様抱っこのように、シートごと介護を受ける方をベッドから優しく抱き上げます。

抱き上げた状態でベッドから少し離れ、アームを同時に昇降・回転 (傾動) させて、介護を受ける方の姿勢を車いすに適した角度や高さに調整保持しな

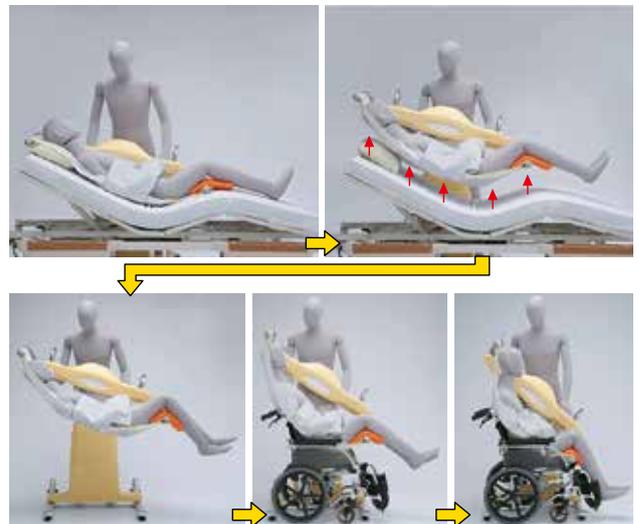
がら、ゆっくりと穏やかに車いすに着座します。

介護を受ける方の体重を SASUKE が支えることにより、介護をおこなう方は、軽い力で、腰部に負荷のかかりにくい姿勢で移乗介助を行えます。二人以上で行っていた移乗介助が一人でも行いやすくなります。

SASUKE を用いた移乗介助手順は以下の通りです。

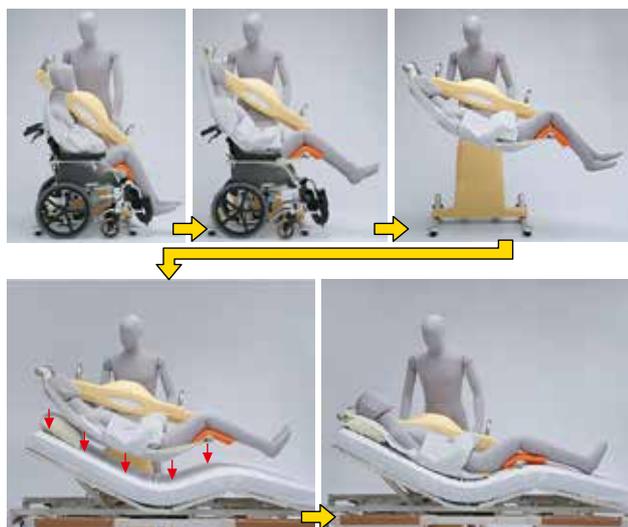
●ベッド→車いす (標準型)

- ①ベッド上でシートを敷き込む。
- ② SASUKE のアームをシートの両端に差し込み、シートごと介護を受ける方を抱き上げる。
- ③ベッドから少し離れ、左右のアームを同時に昇降・回転して介護を受ける方を車いすに着座する。



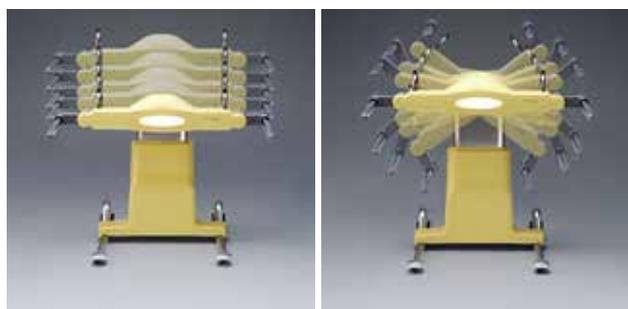
●車いす (標準型) →ベッド

- ①アームをシートの両端に差し込み、シートごと介護を受ける方を抱き上げる。
- ②車いすを取り除き、座位～臥位の姿勢に保持し、ベッド上に移動する。
- ③ベッド上で下降して着臥し、シートなどを取り外す。



シンプルな操作で臥位～座位までの自由な姿勢を保持、幅広い車いすに対応

操作は、左右の操作レバーを上下に動かすだけというシンプルな方法で、軽い力で行えます。介護をおこなう方は、手元を見なくても簡単に操作が行え、介護を受ける方に目（注意）を向けやすくなります。また、機械操作の不得意な方でも誤操作の可能性が少なく使用できます。



型 式	RS1-08Y-A RS1-08Y-B 脱衣室使用可能	
品 名	ロボット介護機器：移乗アシスト ROBOHELPER SASUKE	
総重量（標準バッテリー装着時）	65kg	
適応荷重	80kg 以下	
適応身長	175cm 以下	
使用環境温度	0～40℃	
使用環境湿度	20～80%（結露なきこと）	
耐用年数	5年	
安全規格	ISO13482	
専用バッテリー	型 式	MBP-1
	種 類	リチウムイオン電池
	容 量	25.2v-5.7Ah
	重 量	1.6kg
専用充電器	寿 命	3年（ご使用状況や保管条件等による）
	形式	専用充電器（据置型）
	電源	AC100V 50/60Hz
	充電時間	約2～4時間
販売価格	98.8～99.8万（SASUKE 1セット） ※小売希望価格（参考価格）	
メンテナンス費用	保守サービス 有	

操作レバーを動かしたい方向に操作すると、アームは操作した方向に昇降・回転（傾動）します。アームの回転の際に、シートの両端に差し込まれている左右のアーム間の距離が近づくように設計されているため、シートがたわみ、自然な動きの中で穏やかに臥位⇄座位（一定範囲）の姿勢を取ることが出来ます。

標準型車いすへの移乗の際は、シートのたわみにより臀部が車いすに深く着座しやすくなり、車いす着座後の姿勢調整をほとんど行わなくてよくなるため、介護を受ける方と介護をおこなう方の双方の負担が軽減します。

臥位から座位までの範囲において、任意の高さと角度に調整し、介護を受ける方を車いすに最適な姿勢に保持することができるため、一種類のシートでリクライニング型、標準型、ティルト型などの幅広い範囲の車いすへの対応が可能となります。

シート全面で身体を支える揺れの少ない安定した移乗

介護を受ける方は、臥位姿勢のままシートごとベッドから抱き上げられるため、シート全面（点ではなく面）で身体を支えられます。面で支えられることにより、介護を受ける方の身体圧が分散されやすくなり、移乗時における負担が軽減し安定感を得やすくなります。

また、介護を受ける方の身体上の空間で、機器やシートの取付けなどの作業を伴わないため、視界を遮らず開放感のある移乗が行えます。介護をおこなう方と介護を受ける方のアイコンタクトが取りやすく、移乗の際にコミュニケーションを図りやすくなります。



充電式バッテリーで駆動、ISO13482取得

SASUKE は、PSE 認証品である専用バッテリーおよび専用充電器を使用しています。充電式バッテリーによる駆動のためコードレスで使用できます。コードレスとすることで、電気コードに足が引っ掛かり転倒するなどの危険性を回避しています。バッテリーの脱着も簡単に行え、バッテリーの残量もバッテリー残量表示ランプにより一目で確認ができます。

電磁両立性 EMC（妨害電波を放射しない -EMI、妨害電波に対して誤作動しない -EMF）の試験合格、「生活支援ロボットの国際安全規格 ISO13482」の取得などにより安全性の確保を行っています。

脱衣室での使用が可能

SASUKE (RS1-08Y-A) は居室のみでの使用可能でしたが、SASUKE (RS1-08Y-B) は脱衣室での使用も可能になりました。

導入時スタート講習の実施

SASUKE の操作方法は簡単ですが、最適な移乗介助を行うために、導入時にはマッスル社もしくはマッスル社認定の SASUKE インストラクターによる導入時スタート講習を必ず実施しています。講習では、SASUKE をより安全に適切にご使用いただくために、基本事項やポイントなどをわかりやすくしたデモ&実施を行います。また、講習後も引き続きフォローアップに取り組んでいます。

問い合わせ先

マッスル株式会社
〒541-0042 大阪市中央区今橋 2-5-8
トレードピア淀屋橋 6F
担当者：ヘルスケア部

HP <https://www.musclerobo.com/>

TEL (06) 6229-9550 FAX (06) 6229-9560

Mail info@musclerobo.com

機器の導入事例

機器の導入施設

導入施設名

社会福祉法人井有会
特別養護老人ホーム やすらぎの里（静岡県）
社会福祉法人大里ふくしむら
特別養護老人ホーム 花ぞの（埼玉県）
社会福祉法人多心会
特別養護老人ホーム ひまわりの郷（神奈川県）
社会福祉法人みはら福祉会
特別養護老人ホーム 太陽の家（兵庫県）

導入に要した費用

SASUKE セット以外には特になし

機器の設置状況・使用状況

使用状況に応じ機器を準備する際の動線を考慮し工夫して設置

SASUKE の設置状況は、SASUKE の使用状況に応じて、SASUKE を準備する際の動線を考慮し工夫されています。SASUKE 使用の対象となる「ご入居者及びご利用者」（以下利用者とする）が個室に入居されている場合は、多くの場合、居室内に設置して使用されています。また、対象者が複数になる場合は、利用者やご家族のご意向を確認した上で、居室を近くに設定したり、同じユニットにしたりされています。多床室の場合は、居室内のレイアウトを変更し、SASUKE 使用時のスペースを確保されています。

また、防湿タイプの SASUKE (RS1-08Y-B) を入浴時に脱衣室で使用される施設では、脱衣室内に保管されています。

施設で設置及び使用されている例をご紹介します。

●当施設では、入浴業務の際、脱衣室で、車いす⇔特殊浴槽ストレッチャー間の移乗時に SASUKE を使用しています。導入以前は利用者の体を職員二人がかりで抱え上げるという形で移乗を行っており、職員への身体的な負担が大きかったのですが、導入後は一人でも移乗が行えるようになりました。

●当施設では、居室内で離臥床時、ベッド⇔車椅子間の移乗時に SASUKE を使用しています。下肢に屈曲拘縮のある利用者は、SASUKE での移乗では、介護者の無理な力がかからず、身体的負担が少ないので、表情も穏やかにされています。

● SASUKE 使用に際し、特定の利用者を対象に 1 か月間の使用期間を設け、ご家族了承の下、居室内の配置換え等環境整備を行い、利用者・職員の安全確保を行いながら使用実施に至りました。1 か月後、SASUKE 使用について職員への調査を行うと、中心職員から末端職員への導入時の講習内容の伝達が適切に行われておらず、上手く活用できていない事が判明した為、一度使用を中止して再検討をしました。マッスル社からの使用状況調査で、使用できていない事を明記した所、同社より再講習に来訪があり説明を受けました。その後すぐに、リーダー会議で使用方法の伝達を行い、実際にデモンストレーションも行いました。現在も離臥床時に使用しています。



機器の選定理由・導入経緯

腰痛等の負担を減らし 介護職員の職場定着を図る

施設には、「利用者の介護度が上昇し、介護職員の移乗時の介護負担が増加して退職者が続いたため、移乗介助における介護職員の腰痛等の身体的負担や精神的負担をいかに減らし職場定着を図る」、「施設として抱えない介護を目指し、移動・移乗介助における介護職員の負担をいかに減らしていく」等の課題があり、その課題解消のために、介護ロボットの導入を検討するなかで、SASUKE の選定をされています。

“優しく抱きかかえるように移乗” “お姫様抱っこ” のように “優しく抱きかかえるように移乗” するという、SASUKE の “抱っこ式” に魅力を感じ、移乗介助においての介護者と利用者の双方の負担軽減から導入されています。

導入される時には、施設で SASUKE のデモを行い、実際に施設職員が SASUKE を体験した上で、対象者に有効であるかどうかや、施設の環境に適しているかを確認されています。

機器の適用範囲・使用場面

二人介助が必要・人の手による介助が不快な方も利用

SASUKE は、体重が重い等で移乗時に二人介助が必要な方や、下肢の屈曲・拘縮等で全介助が必要な方など、主に ADL の低下した利用者に使われています。また、人の手による移乗介助が不快に感じる方にも使われています。防湿タイプの SASUKE (RS1-08Y-B) は、脱衣室でも活躍しています。

施設の居室内でベッド⇄車椅子に使用されている例をご紹介します。

● 体重のあるアルツハイマー型認知症で下肢に屈曲拘縮のある O 様に使用しています。フラットリクライニング車いすをベッドの高さに合わせ、スライディングボードで移乗を行っていましたが、少しの刺激にも反応し不穏になられるので、スライディングボードに代わる移乗方法を検討していました。SASUKE を使用すると、体に触る・力をかける等、刺激を与

える事なく移乗が行う事ができます。SASUKEでの移乗時、O様には不快や苦痛表情は見られず、職員も安心して移乗介助を行っています。

●下肢に屈曲拘縮のあるH様に使用しています。二人介助で持ち上げて移乗介助を行っていましたが、H様には負担が大きい事を懸念していました。SASUKEを使用することで、移乗介助時のH様の身体的負担がなくなり、移乗介助前後での表情に変化もなく安定されています。

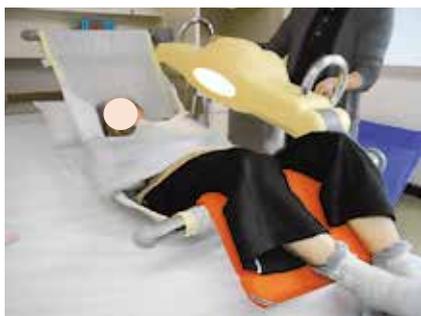
●職員の腰痛予防のために、介護度の高い利用者にはスライディングボードを使用して、移乗介助を行っていましたが改善できませんでした。福祉用具の業者から、抱っこ式のSASUKEの紹介を受け導入しました。SASUKE導入後は重度の利用者に対し、一人介助で移乗を行うことができ、職員の身体的負担は軽減できています。

●SASUKE使用対象者は1ユニットで、軽度認知

症のあるI様に絞り、移乗時は必ず使用しています。I様は、SASUKEを使用し始めた当初、不安があり表情も硬かったのですが、慣れてくると不安はなくなり問題なく使用できています。職員は、ユニット担当の5名が使用していますが、他ユニットで対象者があれば、職員への講習を行い使用範囲も広げる予定です。

続いて、施設の脱衣室の車いす⇔特浴用ストレッチャーに使用されている例をご紹介します。

●入浴のある日に脱衣室で使用しています。SASUKE導入前、脱衣室では、職員二人介助をしており、職員の身体的負担が大きくなっていました。導入後、職員一人での介助が可能になり職員の負担は軽減しています。利用者側も、SASUKE導入後は、入浴後の利用者の表情が穏やかで、入浴での疲労度が軽減されているように見受けられ、SASUKE導入の効果があるのではないか、との声が上がっています。



機器導入施設の声

慣れてしまえばスムーズに使用できる

「導入にあたり、まず、利用者様の心身状況に配慮しています。職員が使用に慣れる事を目的とし、移乗時間は、職員配置に余裕のある12時・15時・18時のみとし実施しました。」

「使用に際しては、慣れるのに時間がかかりますが、慣れてしまえば移乗時間も短く、スムーズに使用できるようになります。」

「職員の身体的負担が減り、安全性も向上しました。」

「利用者様から不安の声はありません。」

「職員負担の軽減・利用者の心理的不安の軽減という点で、導入の意義は非常に大きかったです。」

「利用者の苦痛表情が見られずに移乗できます。」

機器導入の効果

時間に追われる介護から利用者本位の介護へ、職員の意識改革にもつながる

SASUKE 導入の効果は、職員と利用者の移乗介助時の身体的・精神的負担の軽減のみならず、将来的な展望として、職場環境の改善や、職員の職場定着などにも期待がよせられています。

- 使用に慣れてくれば、介護負担の軽減や職員の腰痛予防になります。
- 導入コストはやや高いが将来的に利用者の介護度が上がって、介護負担が増加する可能性を考慮すれば、SASUKE 導入の意義は大きかったです。
- SASUKE の動作は非常にスローであるが、それゆえに、従来の時間に追われる介護から利用者本位の介護への、職員の意識改革にもつながるのではないかと期待があります。

改善点・要望

コンパクト化・軽量化を希望 床面からの介助ができれば

施設から寄せられたご要望を紹介します。

- 施設の設備ベッドや車椅子等の施設の設備が SASUKE に合わない物があるのは、大きなマイナス材料です。
- SASUKE のコンパクト化・軽量化を望みます。
- 色のバリエーションが増えれば生活の場に馴染むと思います。
- SASUKE では床からの介助ができないので、できたらいいと思った。
- とても良い商品だと思うのにまだ知られていないから、もっともっと世の中に発信していただきたい。

パナソニック エイジフリー株式会社

離床アシストロボット「リショーンPlus[®]」

機器の概要

重度要介護者の離床を支援する
介護ロボット

■特徴

従来からの人手で行われている抱き上げ移乗介助は、介護をうける方にとって不安感、身体・心理負担やリスクが大きく、介護する方にとっても身体・心理負担が大きいため、介護現場では重要な課題の一つになっています。

離床アシストロボット「リショーンPlus[®]」(以下、リショーンPlus)は、電動ケアベッドと介助型の電動フルリクライニング車いすを融合した新しい概念の介護ロボットで、介護者1人で、簡単・安心・スムー

ズな移乗介助を実現できることが大きな特徴です。

通常は3モーター(背上げ・足上げ・高さ調整)の電動ケアベッドとして利用することができます。これに加え、ベッドの半分が電動フルリクライニング車いすとして分離可能に構成されています。そのため、寝たきり状態の重度要介護者のベッド→車いす間の移乗・離床を、介護者1人で、抱き上げずに寝たままの姿勢で安心に、かつ容易に行うことができます。

また、リショーンPlusは生活支援ロボット国際

電動ケアベッドと電動フルリクライニング車いすを 融合した新発想の介護ロボット



電動ケアベッド状態

合体・分離中

電動フルリクライニング車いす状態

図1：リショーンPlusの概要

品番	XPN-S10601	
TAISコード	00980-000289	
ベッド	寸法(mm)	2075(全長) × 1009(全幅) × 799~1079(全高)
	重量(kg)	164(車いす部含む)(マットレス除く)
	電源	AC100V(50/60Hz)
車いす	寸法(mm)(座位状態)	1178(全長) × 554(全幅) × 1236(全高)
	重量(kg)	50(マットレス除く)
	電源	DC24V(鉛蓄電池[2Ah]、専用充電器付属)
希望小売価格	900,000円(税別)(配送組立費用別)	
商品URL	リショーンPlus	https://sumai.panasonic.jp/agefree/products/resyoneplus/

安全規格 ISO13482 に基づく認証を取得しています。介護ロボットに求められている安全性を確保していますので、安心してご利用いただくことができます。

■主な対象者

リショーン Plus は寝たきり状態の重度要介護者の離床を支援するための介護ロボットです。身体リスク（骨粗鬆症、皮下出血、皮膚剥離、経管栄養等）により移乗が困難で離床を諦めていた方や、安楽な離床により QOL 向上が期待できる方を対象としています。

■導入効果

リショーン Plus の導入により、主に以下の効果を期待することができます。

① QOL 向上

寝たきり状態の重度要介護者を寝たまの安楽な姿勢で抱き上げなしで移乗でき、移乗時の苦痛や身体・心理負担を軽減することができます。これにより、離床機会を増やし、共用場所での食事やアクティビティ等への参加を促進し、よりイキイキとした生活の維持に繋げることができます。

②労働環境改善

従来、2～3人必要であった重度要介護者の抱き上げ移乗介助を、介護者1人で抱き上げずに行うことができます。これにより、介護者の身体負担軽減（労災で最も多い移乗時の腰痛リスク低減）・心理負担軽減・移乗時の転落事故リスク低減を図ることができます。

機器の導入事例

機器の導入施設

導入施設名

介護付有料老人ホーム サンセール香里園
(パナソニック エイジフリー株式会社)

所在地

〒572-0089
大阪府寝屋川市香里西之町 22 番 7 号

導入時期

平成 30 年 4 月より順次

使用台数

リショーン Plus 3 台

対象者

3 名

(以降記載の検証結果は、同法人他施設の、エイジフリー・ライフ星が丘 1 名、エイジフリー・ライフ大和田 1 名を含む計 5 名)

導入に要した費用

約 210 万円 (計 3 台) (配送費用別)

機器の適用範囲・使用場面

「ゆとりと笑顔のある暮らし」実現のための機器導入・活用

介護付有料老人ホーム サンセール香里園では、平成 30 年 4 月よりリショーン Plus 3 台を順次、導入しています。

サンセール香里園では、ご高齢の方とご家族に「ゆとりと笑顔のある暮らし」を実現していただけるように、「ご入居者のために」という強い想いを持ち、真心のケアと快適な住まい環境をお届けする介護サービスを提供しています。



サンセール香里園の外観、中庭

問い合わせ先

パナソニック エイジフリー株式会社
ケアプロダクツ事業部
〒571-8686 大阪府門真市大字門真 1048
担当者：営業企画部 小森 崇稔

HP <http://panasonic.co.jp/es/pesaf/>

TEL (06) 6908-8122

Mail 下記ホームページよりお問合せください。
<https://sumai.panasonic.jp/agefree/>

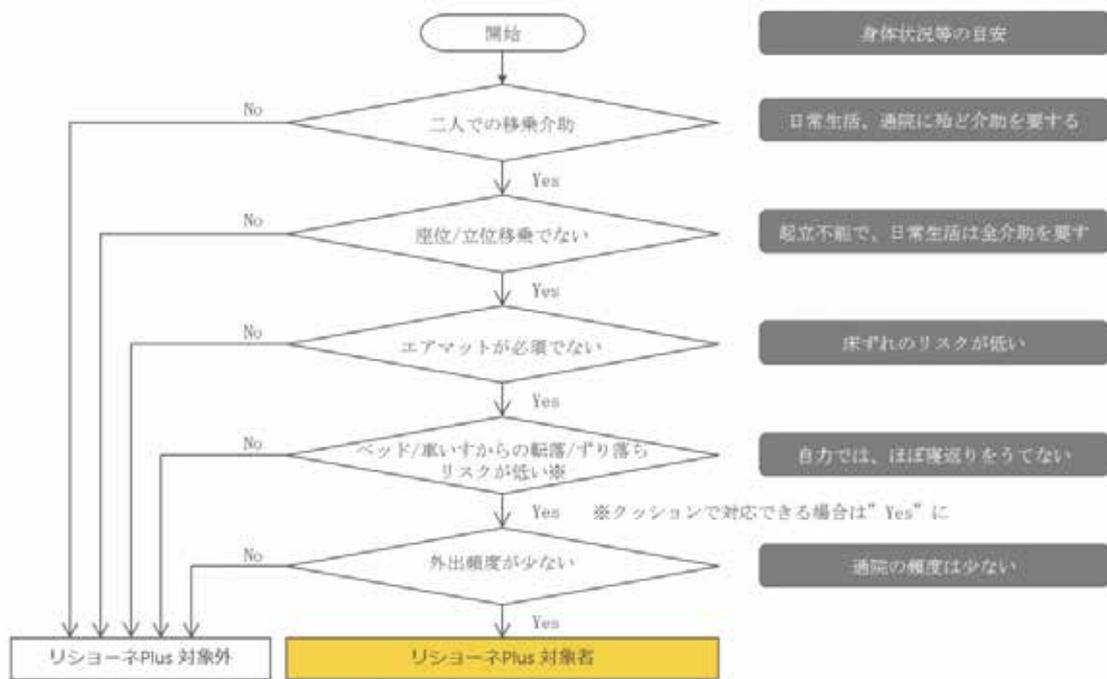


図2：リショーン Plus のご利用者像の検討の流れ

介護度4・5のご入居者は、抱き上げ移乗介助の身体負担やリスクが大きいため、どうしても居室にいる時間が長くなりがちとなり、介護者にとっては身体・心理負担が大きくなりますが、リショーン Plus を使うことで、自由に行きたい場所に行ったり、お食事も他のご入居者と同じ場所で召し上がっていただくことが期待できます。

まず、リショーン Plus を使うことで、ご入居者のQOL向上が期待でき、機器の導入価値を最大化できるご利用者像を検討することから開始しました。

ご利用者像を図2のように検討し、流れに沿って選定した、表1に示す5名の方に利用しました。

5名ということ、入居者の中での割合は非常に少なくなりますが、一方で、介護者の負担の大きさとい

う意味では、割合は大きくなります。施設全体の安全性を向上することで、入居者へのサービスを向上させることを目標に、リショーン Plus の利用を開始しました。

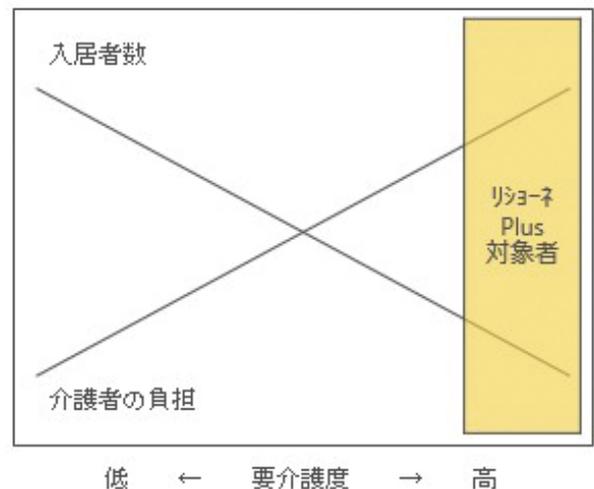


図3：対象となるご利用者のイメージ

表1 リショーン Plus ご利用者の情報（利用当時の状況）

事例	年齢/性	病名・症状	要介護度	自立度	施設名
1	90代/女性	廃用症候群、拘縮（肩、膝、肘等）	4	C2	香里園
2	80代/女性	脳内出血（左半身麻痺）、拘縮	4	C2	香里園
3	70代/女性	左脳卒中、全身麻痺、拘縮	5	C2	香里園
4	70代/女性	認知症、パーキンソン症候群、拘縮	5	C2	星が丘
5	70代/男性	硬膜外/硬膜下血腫、拘縮（両手足）	4	C2	大和田

移乗の際の緊張が減り、心身ともにラクになる

<リショーネ Plus 導入前>

- スライディングボードで移乗していましたが、体に触れることでピクつき（痙攣に似た症状）が起きるため、移乗のたびに緊張されていました。
- 夕食後ベッドに戻る際に、スライディングボードで移乗するため、覚醒してしまい、なかなか寝付けないようでした。
- 食事後は、オムツ交換が必要ですが、忙しくて介護者2人が揃わないタイミングだと、お待ちいただくことがありました。

<リショーネ Plus 導入後>

- 移乗の際に体に触れることが大幅に減り、ピクつきによる緊張が少なくなったことで、ラクになられたようです。
- 夕食後ベッドに戻る移乗時も、緊張が少なくなり、緩やかに入眠されているようです。
- 食事後のオムツ交換は、車いすからベッドへ戻る移乗が介護者1人で出来るようになったため、お待ちいただく時間が少なくなり、不快な時間を減らしました。
また、ご家族からも、下記のようなお声をいただきました。
- ピクつきによる緊張が少なくなったので、リショーネ Plus にして喜ばれていた。
- 皆さんが居るダイルームなどで声を聞きながらいられるのが嬉しいです。



リショーネ Plus のご利用状況

機器の導入による介護業務の変化

機器導入の効果

移乗介助の負担が大幅に軽減。 すぐに使い慣れた

介護する側の視点では、移乗介助が“しんどい”と回答した人の割合が、導入前の24.5%から導入後は1.6%となり大幅に低減しました。数値だけでなく、“腰に負担がかからない”“抱き上げないので力がいらぬ”などの効果が表れています。

また、85%の介護者では、5回程度の使用で、機器を使うことの難しさが無くなっています。つまり、使い始めてすぐに、使い慣れた機器として有効に活用でき、使い慣れた安心感から、ご入居者へのさらなる心配りや目の行き届いた介助ができるようになります。

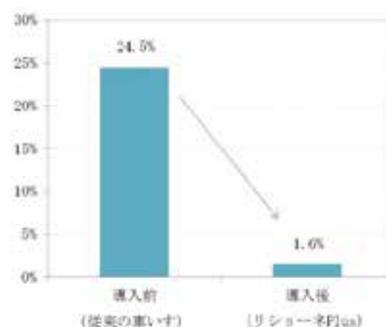


図4：移乗介助がしんどい介護者の割合 (n=49)

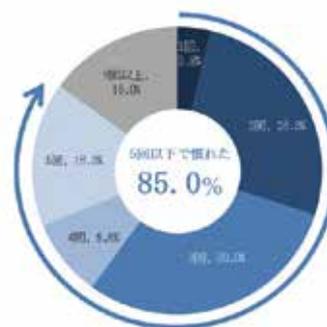


図5：使い慣れる回数 (n=80)

リショーンPlus導入により 創出できた時間を有効活用

移乗介助について、2人が1人になり、従来の2人が揃うまでの待ち時間も削減できたことで、移乗にかかる時間は6.7分が4.5分となりました。つまり、2.2分の低減=創出ができました。新たに創出できた時間は、他の業務等を行うことができるようになり、これを1日4回（8往復）3名のご利用者にご導入したサンセール香里園での1カ月に換算すると、約26時間を創出できたこととなります。

創出した時間は、他のご入居者の介助や、ご入居者とのコミュニケーションの時間に使うことで、リショーンPlusのご利用者の安全性の向上だけでなく、施設全体での安全性の向上や、行き届いたサービスの実現に役立っています。

また、意見としてはまだまだ少数ですが、創出した時間を、残業時間の削減や、自己啓発に活用できるといった声も出てきており、リショーンPlusは、介護者のやる気の向上、スキルアップ、職場への定着にも貢献できると考えております。

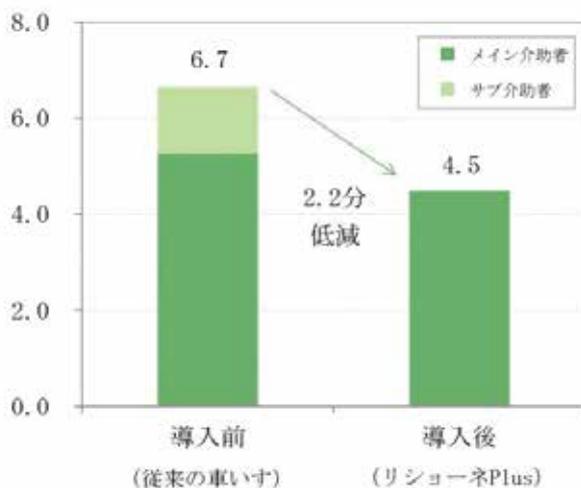


図6：導入前後の移乗介助の所要時間（分）（n=63）

改善点・要望

お客様の声を反映した新モデルに 高い評価

リショーン（旧モデル）を導入いただいた介護施設や、展示会等で試用いただいたお客さまから、次のような改善点・要望をいただきました。

- 部屋のレイアウトに合わせて、ベッドの向き（車いすが分離する向き）を変えたい。
- 車いすのアームレストにカバーを付け、体幹保持性を向上してほしい。
- 車いすのリクライニング時の前方へのずり落ちを軽減してほしい。
- 在宅でレンタルして利用したい。等

弊社ではこれら現場からの生の声を商品に反映すべく、改良・検討を重ね、平成29年1月20日より離床アシストロボット「リショーンPlus」（改良普及モデル）（図8）の販売を開始し、平成29年2月1日より順次レンタルを開始しました。同年3月

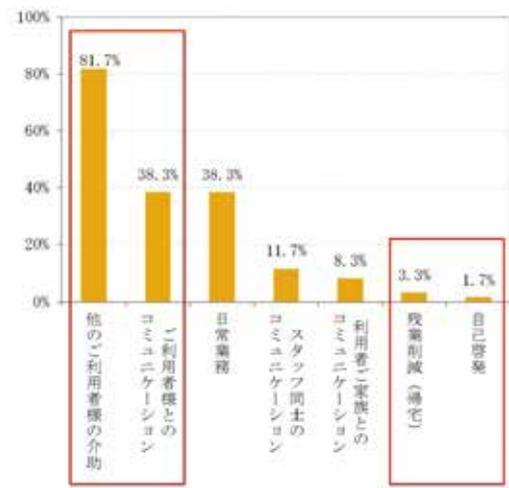


図7：創出した時間の活用内容（n=60）（複数回答）

1日には、公益財団法人テクノエイド協会・厚生労働省主催の「介護ロボット導入好事例表彰事業」において、メーカー部門で「優秀賞」を受賞。同年7月には貸与マークを取得。多くの介護施設・ご家庭にてご利用いただいております、「介護する方・受ける方」双方の負担軽減・QOL向上につながっているとのご報告をいただいております。

また、介護ロボットへの社会的な期待もあいまって、「CEATEC AWARD 2017」ホーム&ライフスタイル・イノベーション部門 準グランプリ、「日経優秀製品・サービス賞 2017」日本経済新聞賞 最優秀賞、および「2018年度グッドデザイン賞」グッドデザイン・ベスト100を受賞しました。

今後も介護現場の声をしっかりお聞きし、より現場に即した介護機器・介護ロボットの商品づくりを行い、「これからの介護、これからの暮らし」に、心を込めてサポートしてまいります。



図8：開発のあゆみ

アロン化成株式会社

キューレット

機器の概要

家庭用電源で動かせる真空吸引式 水洗機能を持ったポータブルトイレ

水洗ポータブルトイレ キューレットは、真空吸引力を利用してポータブルトイレに水洗機能を付加した製品です。真空吸引は新幹線のトイレでも利用されており、家庭用の電源（100V）で動かすことは、世界でも初めてに近い取り組みです。

真空吸引式トイレ最大の特徴は洗浄水が少量で済む点で、キューレットは1回の洗浄水が約500ccです。そのため汚水の排水方法を2種類選択できるようになりました。1つは汚水を密閉容器に複数回貯留する方式（室内仕様）で、もう1つは配管工事を行い直接下水に流す方式（屋外仕様）です。トイレ内への給水は、トイレ背部に設置した給水タンク（容量約5L）の水を使用するため、給水工事を行う必要がありません。またキューレットはトイレと吸引装置を分離して設置する構造のため、トイレが軽量で動かしやすく安全にお使いいただけます。

室内仕様では給排水工事を伴わずに設置が可能です。そのため、今まで水洗トイレの設置が難しかった、介護施設・病院、集合住宅・賃貸物件など、どこにでも設置が可能となりました。汚水は吸引装置下部に設けた密閉容器に最大6回分貯留できるため、夜間の汚水処理の問題や居室内への臭いの拡散を防止することができ、夜間の排泄処理の負担を最小限にすることが可能です。また工事を伴わない方式のため、トイレと吸引装置を部屋から部屋へ自由に移動することができます。対象者の身体の状態に応じて

トイレユニット		
タイプ	家具調トイレ	樹脂製トイレ
品番	191901	191902
販売価格	150,000円（税抜）	100,000円（税抜）
真空ユニット		
タイプ	屋外仕様	室内仕様
品番	191921	191810
販売価格	425,000円（税抜）	470,000円（税抜）
メンテナンス費用	メンテナンスの内容により都度見積り	

適切な排泄支援機器を選択することが可能になるため、常に機器を最大限活用できます。

屋外仕様では、排水を直接下水に流すため汚水処理の手間はありません。真空排水方式の採用により洗浄水が少なく済むため、下水道や浄化槽だけでなく今まで水洗トイレの設置が難しかった汲み取り式のお宅でも設置が可能です。また排水は最大延長20m、最大高さ2mまで吸い上げること（逆勾配での配管）ができます。それにより配管工事の自由度が増し、水回りから遠い場所でのトイレの設置ができるようになりました。

トイレは軽量で移動がしやすい樹脂製と家具調の2種類から選べ、利用者の身体状況に合わせて便座やひじ掛けの高さの調整が行えます。背もたれや足引きスペースも設けてあり、適切な排泄姿勢が取りやすくなります。またキャスターも付いているため、簡単に移動させることができます。樹脂製トイレは重量が15kgと水洗ポータブルトイレとしては業界最軽量で、車いすへの移乗が多い方など、ちょっとしたトイレの移動が多い場面で簡単に移動ができて

機器と一般の水洗トイレ、ポータブルトイレの機能比較

	水洗トイレ	ポータブルトイレ	キューレット (室内仕様)	キューレット (屋外仕様)
便座・ひじ掛け高さ調整	×	○	○	○
移動性能	×	◎	◎	○
水洗機能	○	×	○	○
給水工事	必要	不要	不要	不要
排水工事	必要	不要	不要	必要
汚水処理	不要	毎回必要	6回に1回必要	不要
水の必要量	約6L	約2L	約0.5L	約0.5L

す。家具調トイレは温水洗浄便座を標準装備しており、前後・左右に動く温水シャワー（シャワピタ機能）により半身麻痺の方でもお尻を洗浄しやすい他、暖房便座やお尻の温風乾燥機能も設けております。この機能によりお尻を洗う・乾かすという動作が可能となるため、利用者が自立する効果が期待できます。

キューレットを設置することにより、居室内の排泄物臭気が低減されるため、介護者・利用者のストレス軽減、ならびに施設多床室の非対象者への臭気ストレスが軽減できます。ロボット技術により排泄物処理の一部が自動化されるため、介護者の身体的負担を減らすことができます。また利用者が自力で排泄物を処理することにより、排泄後の介助に対する遠慮や気兼ねが低減でき、排泄を我慢する、排泄を催さないために飲食を控えるといった考え方を抑止し、ひいては脱水症状の予防も期待できます。排泄の自立を促すことでトイレの使用期間を延ばすことができ、安易なおむつ利用を防ぐことができます。



機器のイメージ



家具調トイレ・室内仕様の設置イメージ

機器の導入事例

機器の導入施設

導入施設名

社会福祉法人シルヴァーウィング
特別養護老人ホーム みさよはうす土支田

所在地

〒179-0076 東京都練馬区土支田 3-27-27

導入時期

2018年3月

使用台数

2台 ※家具調トイレ・真空ユニット（室内仕様）の組み合わせ
※居室は個室で居室内に水洗トイレあり

導入のための協力機関

公益財団法人テクノエイド協会

導入に要した費用

1,252,800円（2台）諸経費0円



家具調トイレ・屋外仕様の組み合わせ設置イメージ

シャワーノズルの位置を調整できるシャワピタ機能

リモコン操作で、左右3段階・前後5段階の調節が可能。



ノズル位置は15パターン



使用者のおしりにシャワーノズルを合わせることができます。

温水シャワー機能（シャワピタ機能）

機器の設置状況・使用状況

吸引装置は工事不要の室内仕様 居室内の家具と違和感がない外観

水洗ポータブルトイレ キューレットを2台導入しました。トイレは家具調、吸引装置は工事不要の室内仕様です。

設置はトイレと吸引装置を排水ホースで繋ぐだけで、工事をすることなく、設置も短時間で済みました。排水ホースによる転倒のリスクを考慮したレイアウトにさせていただき、ホースを通す場所を通行の妨げにならない場所（ベッドの下など）にすることでスッキリした配置となりました。トイレ自体の大きさは今までのポータブルトイレと変わらなかったため、従来と変わらずベッドの横に配置ができました。吸引装置はサイズが大きく設置場所は別途検討が必要でしたが、木製の外観のため、居室内の家具と並べておいても違和感のないデザインになっていたのは良かったです。

使用の状況は、従来ポータブルトイレを使用していた3名のうちの2名にキューレットを使っていたことにしました。

居室は個室で室内に水洗トイレもあるのですが、水洗トイレまでの移動も、転倒のリスクを伴うためポータブルトイレを設置していました。その結果汚物処理の問題や臭いの問題があったことからキューレットの導入を決めました。

導入時はメーカーの方に来ていただき、使い方の指導をしていただくことで職員が使い方や注意点を事前に把握するよう努めました。また使用上のポイ

ントになるところで、共有化するべき点については、職員の連絡会で報告をするとともに、ポイントシールを作成し、機器に貼り付けて使用の精度を高めるよう心掛けました。

トイレ自体は見た目が家具調で、ポータブルトイレからキューレットに置き換えた際は利用者が一瞬戸惑う（トイレと認識できない）こともありましたが、数日で慣れていただき以前と変わらず使ってもらえるようになりました。導入後数週間で利用者も慣れ、自身で排泄後の処理を行っており、職員も1日1回程度の給水と汚水の処理が定常業務化しました。

機器の選定理由・導入経緯

利用者の不快感と職員の介護負担 軽減に効果が期待できる機器求める

選定の理由は、排泄支援業務において臭気の課題や介護負担の軽減に効果が期待できる介護ロボット機器を探しており、テクノエイド協会に相談したうえで決定しました。

導入前はポータブルトイレを使っており、自身の任意のタイミングで使っていた他、定時の排泄誘導も行っていました。定時でトイレへ座っていただく場合は排泄の都度バケツの交換を行っていましたが、夜間任意で使用される際は定時での交換までの時間が空いてしまい、汚物が溜まっている横で就寝されることから、不快感があったかと考えられます。消臭器は稼働していても居室内の臭いはこちらがちになり、利用者のみならず汚物を処理する際の職員の負担軽減を模索していました。また利用者がポータブルトイレを使うことへの抵抗感から、自力で既設



居室への機器設置の状況



居室への機器設置の状況

のトイレへ移動しようとして転倒しそうになった経験もあり、トイレに行く方向にセンサーを設置する対策を取ることもありました。

機器の適用範囲・使用場面

身体状況の変化による利用者変更でも簡単に最適な対象に最大限活用できる

利用者の適用範囲は通常のポータブルトイレと同じとしました。自身に尿意や便意がある方、自力または介助でポータブルトイレへ移乗できる方（自力で既設のトイレへ移乗できる方で転倒のリスクがある方）、トイレで安定した排泄姿勢がとれる方が適用範囲です。また水洗スイッチの操作があるため、スイッチを認識できる方という条件が1つ追加になります。

職員の実施事項は、1日1回の給水作業（約5L）と密閉容器の汚水の処理（重量5kg程度）のみです。機械の操作はなく実施事項は単純なため高齢の職員でも簡単に作業ができます。

使用場面は居室内でベッドの隣にキューレットを置いて使用します。キューレットは2名の方に使っていますが、1名は要介護4で、ベッドからキューレットの移乗であれば何とか一人で可能なため、昼夜共に使用しています。認知機能が高く水洗スイッチも認識可能なため、自身でキューレットへ着座、排泄、水洗、ベッドへの移乗を完結させることができ、排泄動作の一部が自立し生活の質（QOL）が向上したように感じます。利用者が女性のため、ポータブルトイレを使用していた時は排泄物を男性の職員に見られることへの抵抗感も少なからずあったと思いますが、キューレットになってからは利用者自身の排泄への気兼ねも低減できたと感じます。

もう1名は、日中は車いすへ移乗させ既設のトイレへ移乗介助を行い、夜間のみベッドの横へキューレットを設置して、移乗介助により使用していました。キューレットは職員一人でも動かせる重量のため、日中の車いすへの移乗時は少しだけキューレットをベッド後方へ動かし、車いすをベッド近くに寄せることで、簡単に利用者に移乗させることができました。

その後利用者の身体状況が変化し、ポールがないと立位がとれなくなりました。そのためキューレット使用時に安全な状態で衣類の着脱をすることが難しくなったため利用者を変更しました。キューレットは新しく入居してきた利用者に使っていただくため、トイレと吸引装置を別の部屋に移動させ設置しました。水道工事がされていない水洗トイレであり、トイレにも吸引装置にもキャスターが付いているので、部屋から部屋に簡単に移動ができました。キューレットはいつでもどこでも常に最適な対象者に使っていただけるので、最大限活用することができる点が施設側としては魅力の1つに感じます。

職員の作業は、1日1回朝7時の密閉容器の汚水処理と、給水タンクへの水の補充です。昼夜キューレットを利用する利用者については汚水処理と給水作業を2回ほど行うこともありますが、利用者の排泄のタイミングや回数もある程度決まっており、作業の負担感は非常に少ないです。また他のロボットと違い、利用者が機器を利用するタイミングと、職員が作業をするタイミングが別でできます。都度の作業がなく手の空いたタイミングで作業ができる点も良かったです。

問い合わせ先

アロン化成株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-6
住友不動産日比谷ビル
担当者：ライフサポート事業部 企画G 坂口 拓也

HP <https://www.aronkasei.co.jp/anju/>

TEL (03)3502-1448

Mail takuya_sakaguchi@aronkasei.co.jp

居室の介助が快適に。給水と密閉容器の汚水捨てだけをルール化。

水洗トイレなのに設置が短時間で終わったことに驚きました。また設置後居室の臭気の低減が図られ、処理回数も減って、利用者だけでなく職員も快適に居室での介助ができるようになりました。操作方法もシンプルにできるよう工夫しており、水洗操作は緑色のボタンを押すだけなので利用者でも操作を覚えられる点が良いです。職員の行うことは、給水タンクへの給水と密閉容器の処理だけです。洗浄に使う水の量が少ないので給水と汚水処理は1日1回すればおおよそ済みます。朝勤務の人が出勤後給水作業（約5L）を行うのと、密閉容器の汚水を捨てることだけルール化しています。

機器の導入による介護業務の変化

機器導入の効果

夜間の排泄物処理の手間がなくなり 職員の精神的・身体的負担が軽減

水洗のため居室の臭いや処理回数が軽減し、職員・利用者の精神的・身体的負担が軽くなったように感じます。水洗操作により排泄物を密閉容器に6回分貯留しておけるので、夜間の排泄物処理の手間がなくなりました。操作方法が極めて簡単なので職員が使い方をすぐにマスターできた点も良かったです。

水洗トイレなのに機器が自由に移動でき、便座の高さが調整できる点も良く、利用者がキューレットの使用が難しくなった際に、別の部屋に移動ができ機器を有効活用できました。

改善点・要望

立位がとれない人でも使える工夫、 便器の洗浄能力の向上を望む

排泄姿勢や清拭の点からキューレットの有用性は特に排便時にありますが、手すりがないと立位がとれない利用者でもキューレットが使えるよう考慮をしていただきたいです。また職員1人で利用者のズボンの着脱が難しいためにキューレットの使用を断念し、車椅子に移っていただいた上で既設トイレを使用するようになった事例もありました。

洗浄水が少ないため汚水処理は楽ですが、便器の洗浄能力が普通のトイレに比べると劣ります。少ない水の量で洗浄性を向上する工夫を期待します。

便が緩く座面に座る前に漏れた場合、便座と木枠の間の溝に便が付着し、除去するのに手間が掛りました。改良を期待します。

株式会社アム

水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん3号」

機器の概要

「臭い」と「後始末」の問題を解決する
移動可能な水洗ポータブルトイレ

■機器の特性

「流せるポータくん3号」は電動ポンプを内蔵した圧送式水洗トイレです。ポンプの力で汚物やトイレトーパーを粉砕し流してしまいますので、従来のバケツ式ポータブルトイレのように利用された方の排せつ物をスタッフの方が片づける必要がなく、利用者本人がボタンスイッチをポンと押すだけで後片付けを終わらせることができます。「後片付け」と「臭い」と「気兼ね」の問題を解決するために開発しました。



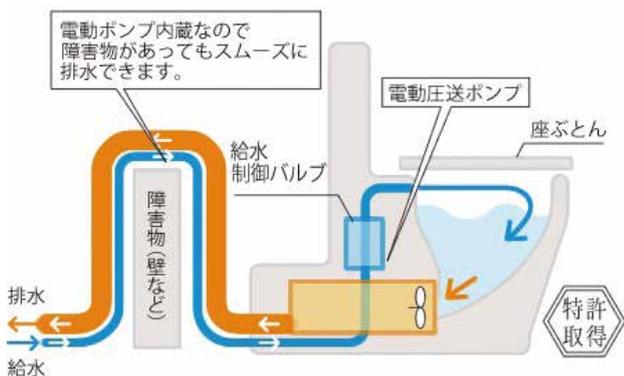
標準便座タイプ



洗淨便座付きタイプ

■機器の機能・仕様

自宅や施設に設置されている通常的水洗トイレはロータンク等のレバーを回すことで便器内に洗浄水が流れ込み、便器内から床下に敷設された汚水管を



機器の動作イメージ

通り排水されますが、「流せるポータくん3号」は3000回転/分、揚程5.5mの高性能な電動ポンプを内蔵しており、回転する羽で汚物とトイレトーパーを細かく粉砕し、便器後方の排水口から接続された変形可能なビニルホース（内径25mm）で下水管などの排水施設へ流してしまいます。つまり、ベッドに近づけたり離したりする必要がある場合には、接続しているビニルホースの届く範囲であれば移動が可能になります。また、汚物を細かく粉砕し流してしまいますので居室内の手洗いなどを利用した接続も可能になります。そのうえ、床に穴を開けたり、床下に汚水管を敷設したりすることなく施工することができるので、導入工事も容易であり短時間で完了します。

■開発の経緯

弊社は、工事現場用仮設トイレの製造・販売・レンタルを主力事業としており、住宅の新築現場やリフォーム現場へ多くの製品を送り出しています。特に住宅リフォーム現場へのレンタル業務が多く、年間11,500現場への出荷をしていますが、仮設トイレは「臭い」「汚い」などの良くない評判があるため、リフォームをしようとする施主にとってはできれば使いたくない製品だとされてきました。「使って気持ちの良い仮設トイレが欲しい」「臭いが気にならない仮設トイレが欲しい」「お隣に迷惑をかけない仮設トイレが欲しい」「家の中で使える仮設トイレが欲しい」といったお客さまからのご意見をいただき、2002年に開発した製品が電動ポンプ内蔵型圧送式水洗トイレ「どこでも水洗」です。製造開始以来、関東、関西、東海、北陸地区で64,000件の工事現場でご利用いただき、工事現場の環境改善に役立てていただいています。

その中で、「どこでも水洗」をご利用いただいた工務店の方から「この便器を母親のベッドの横に置いて使いたい」という要望があり、利用していただいたのですが、大変役に立っていると大いに喜ばれ、「この技術は介護・福祉の世界で貢献できる。もっとおじいちゃんおばあちゃんが使いやすい形に改良しな

さい」と言われました。私たちはその言葉の通り介護・福祉に貢献できる製品になるよう改良を続けてきました。



室内用仮設トイレ

■開発者の思い

開発者である私（新保昌貴）の祖母は脳梗塞で片麻痺の障害が残り、自宅のトイレへ移動することが困難になったためバケツ式ポータブルトイレを利用

するようになりましたが、昭和初期に建てられた自宅は障子やふすまで仕切られただけの間取りで、祖母の居室は茶の間の横の部屋になっていましたので、ポータブルトイレから漏れ出る臭いが食事をする茶の間にまで流れ込んでくる状態でした。また、祖母は、母が後片づけをするときはいつも「ありがとね、ありがとね」と言い続けていました。孫である私がバケツの後片づけをすることもありましたが、祖母は大変気を使い、気兼ねしていました。祖母が介護されていたのはずいぶん前のことですが、その時に「ポータくん」があったらきっと祖母は気兼ねなしに過ごせたのかなと思っています。今、母が要介護3となり自宅のトイレに行くことが困難になりました。もちろん、母のベッドの横には「ポータくん」が座っています。母は毎日「これがあるから助かるわ」と大喜びでトイレを使用しています。



開発者 新保昌貴

機器の導入事例

機器の導入施設

導入施設名

社会福祉法人吉祥会
介護老人福祉施設「寒川ホーム」
併設サービス：訪問介護、通所介護、短期入所生活介護、
居宅介護支援
利用者数：58名 平均要介護度：3.67（要介護1：3名、
要介護2：4名、要介護3：16名、要介護4：
21名、要介護5：14名）
従業員数：26名

所在地

神奈川県高座郡寒川町小谷 1-13-5

導入時期

2018年7月5日～9月30日

使用台数

2台

導入のための協力機関

かながわ福祉サービス振興会
介護ロボット普及推進協議会事務局

導入に要した費用

機器本体の料金のほか
特殊箇所の取付工事費用約78,000円

機器の設置状況・使用状況

利用者、介護スタッフの動線を考え 邪魔にならないスペースで配管・設置

■導入までの流れ

水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん3号」は給排水の配管設備工事を伴う商品なので、事前に寒川ホームさまで商



給排水の配管接続

品の説明・打ち合わせを行い、設置希望の居室を確認し、その場で工事内容を打ち合わせ、受諾いただき後日設置取り付け工事を行いました。2階フロアの4床の居室に2台設置させていただきました。給排水は居室の手洗い設備を利用できたので、配管工事は全て屋内での作業になり、屋外での工事はありませんでした。利用者や介護スタッフさまの動線を考え、なるべく邪魔にならないスペースを使用して配管材料を取り付けました。工事は居室内だけだったので、実際の設置工事はAM9:00～PM13:00で完了しました。

機器の選定理由・導入経緯

「業務効率」「安眠」「ADL」「水分確保」「環境」の向上を主目的に

■導入目的

①業務効率化

従来のバケツ式ポータブルトイレと違い、水洗式のポータブルトイレはボタンを押すだけで後始末が出来るので、介護職員の方がバケツを持って捨てに行き、洗って元に戻す一連の業務を廃止できます。

②安眠確保

夜間の定期的な排泄を促す必要がある方もベッドの横に水洗トイレがあることで、居室外の共用トイレへ行く時間が短縮されました。

③ADL向上

利用者本人がボタンを押して流すだけなので自発的にトイレ移乗の練習をしてくれるようになります。寝たきりにならず自力で排泄できるようになります。

④水分確保

バケツ式ポータブルトイレの場合、利用回数を減らすために水分を摂取しないようにしている方が多いのですが、水洗式ポータブルトイレを設置後は、夜間の排尿を気にせず水分確保ができるようになります。

⑤清潔な環境

水洗トイレが当たり前といえる現在、居室内のベッドの横に排泄物が残ったままにならず、ボタンを押すだけですぐに処理ができます。

②自力でトイレに移乗可能な方。又は介護や補助器具等を使用して移乗出来る方。

③体重 80kg 以下の方。

■使用状況

取り付け配管工事完了後は即時利用可能になります。施設の担当者さまに注意事項のご説明をしたその日からご利用いただいております。利用対象者は寒川ホームさまにて選定していただき、ご家族さまにも事前に利用同意をいただきました。利用者の選定条件はポータブルトイレが利用可能な方。お一人は軽度の認知症の方でした。使用場面は排泄時間になりますが、主に夜間でのご利用が多く、毎日夜の間に5回程度使用されていました。

■使用場面

①動かすことが可能

排泄場面での利用が可能です。寒川ホームさまでは、もともとバケツ式のポータブルトイレを使用されている方の使用だったので、水洗式ポータブルトイレへの移行は全く問題なかったと考えられます。実際の機器の給排水接続は柔らかい耐圧ホースを使用しているので、介護スタッフの方で居室内で動かすことが可能です。利用者のその日の体調によって設置場所を動かすことは従来のポータブルトイレと同様に可能です。また例として、昼間に共用トイレを使用して欲しい場合は動線の邪魔にならない所へ移動しておいて、夜間に流せるポータくん3号を使用して欲しい場合はベッドの横に動かして夜間だけ使用する等の、介護施設さまの介護方針に基づいた利用も可能です。

②洗浄暖房温水便座オプション

完全に水洗式なので、オプションの洗浄便座を利用できます。ご自身でお尻を拭けない方も洗浄便座があれば介護を必要とせず、排泄行為が可能です。

機器の適用範囲・使用場面

注意事項説明後に即、利用開始
夜間の排泄回数が増える

■利用対象者

①自力で座位をとれる方、または補助器具等を使用して座位をとれる方。

タイプ	標準便座タイプ	洗浄便座付きタイプ
品番	SPF15-3	SPF15-3-SB
TAISコード	00994-000012	00994-000013
重量	24kg	
寸法(mm)	幅570×奥行710×高さ60	
座面高さ(mm)	390	410
材質	FRP樹脂、ポリエチレン、ステンレス、ウレタンフォーム、軟質塩化ビニル、塩化ビニル、黄銅	
販売価格 (希望小売価格)	298,000円	348,000円

問い合わせ先

株式会社アム本社 福祉事業部
〒929-0426
石川県河北郡津幡町竹橋西179-1
担当者：新保 昌貴、河口 泰範

HP <http://www.pota-kun.jp>

TEL (076) 288-8655 Mail pota@am-co.co.jp

ご自身の家では洗浄便座を使用していたから、洗浄便座付きを希望される方が多いと思いますが、その要望にも応えることが可能です。実際、寒川ホームさまで利用していただいたお一人から「洗浄便座付きがあって良かった」と言っていただきました。

③ QOL 向上、ADL 向上

利用者の一日の排泄回数が増えることがあります。従来のバケツ式のポータブルトイレではバケツの後始末を介護スタッフさまにしてもらうことへの遠慮や、排泄後の臭い等からなるべく我慢をしているというのは耳にすることが多いことです。流せるポータくん3号は足元もしくは手元のボタンをポンと押すだけで利用者本人が後片付けできるので、利用者が遠慮からトイレを我慢することはなくなります。特に



居室への機器の設置例

オムツからトイレへの移行に挑戦している方は、積極的に移乗の練習をされて、寝たきりにならずに済むこともあります。また、夜間にトイレに行かなくて済むように水分を取らないようにすることがありますが、水洗式にすることで夜間のトイレを心配することなく生活出来るので QOL の向上になります。

④ 見守りの軽減

居室に水洗トイレがない場合は共用トイレを使用されることとなりますが、介護が必要な方や見守りが必要な方は介護スタッフさまが介護・見守りをする必要があります。しかし、居室に水洗トイレがあれば、その介護や見守りの業務は大幅に改善できます。特に居室内やベッドの近くにトイレがあれば、自力で排泄できる方は介護・見守り業務が大幅に軽減されます。



居室への機器の設置例

機器導入施設の声

機器トレーニングの必要がないので抵抗なく導入

■スムーズな導入

水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん3号」を導入するに当たって必要なことは前述の給排水の配管工事のみになります。介護スタッフさまで事前にさせていただく機器のトレーニング等は一切必要ありません。注意事項を確認していただだけで使用出来ます。介護スタッフさまからも機器トレーニングが必要ないことで介護ロボットの導入に抵抗がなかったと言っていました。利用者からもロボットへの不安があったが、「トイレなので利用に支障がなかった」また、「このトイレが今からなくなるとは困る」との感想をいただいています。

機器の導入による介護業務の変化

機器導入の効果

利用者が自発的に排泄行為をするようになった

①加算取得

平成30年に新たに新設された排泄支援加算として利用できました。

②排泄障害の改善

一定時間毎に排泄を促す必要があった利用者が、流せるポータくんを設置して利用するようになってから自発的に排泄行為をするようになりました。

③居住環境の向上

居室で通常の水洗トイレと同等機能が確保されて

おり、利用者も介護スタッフも非常に満足しています。居室内の排泄臭がなくなりました。

④業務の効率化

ポータブルトイレと違い、バケツの後始末や洗浄業務がなくなりました。

改善点・要望

機器の丸洗いや簡単な移動ができるように

①防水性能：丸洗いが可能なようにして欲しい。

②居室内の移動：トイレを居室内で動かせるが、もっと簡単に動かせるようにして欲しい。